

地域自立支援協議会とは

小澤

- 国の研修で強調している3層構造
- 個別調整会議→定例調整会議→運営会議
- 考え方としては、ケースワーク(アウトリーチを含む)→コミュニティワーク→コミュニティ・デベロップメント、のソーシャルワークの3層構造のシステム化
- これに基づいて、個別ニーズ→地域課題→社会資源の調整と開発へ展開する

地域自立支援協議会の活性化条件

- 下からの組織化（サービス調整会議から全体の調整へ発展的）
- 上からの組織化（先に地域自立支援協議会を立ち上げる）：部会（分科会）の重要性
- 市町村（行政）は事務局、記録、会場提供などの黒子役が重要
- 部会、サービス調整会議をリードするキーパーソンの重要性
- 助言・スーパーバイザーとしてのアドバイザー事業の有効活用